

元気な子どもが大好きです。

(平岡北第4児童クラブ 藤野 勝敏)

約40年間、高校教師として教壇に立ち、退職を期に児童クラブの支援員を応募しました。

「生徒」から「児童」へ、対象は変わりましたが、実は、高校教諭時代にも地域貢献事業の一環として、地域の小学生や保育園児等と芋掘りしたり、囲碁・将棋を教えたりと、子どもと接する機会が多くあり、親しみがあつたのです。

私自身、幼いころから外で遊び回り、運動・スポーツも好きで、子どもたちと走り回る体力も自信がありました。

様々な趣味を活かしたい。

スポーツは卓球にテニス、また、囲碁に将棋と様々な特技を強みにして、子どもには惜しみなく伝えています。

子どもは吸収が驚くほど早く、目を輝かせて寄ってきます。その様子が本当に可愛い。もちろん遊ぶときは、子どもがケガをしないように安全を第一に考えています。

子どもの気持ち、保護者の気持ち。

高校の生徒と比べ、児童は多様性に富み、配慮が必要な児童も多くいます。

今まで経験したことの無いことも多く、日々勉強し、互いに成長できることに喜びを感じています。

また、保護者と接することで、働きながら子育てをしているお母さん、お父さんの気持ちが分かり、子育ての大変さを身にしみて感じています。
(私の世代は、子育ては妻に任せっぱなしでして・・・)

昨日できなかったことが、今日できるようになった。数年前では考えられないことが今できた。その瞬間に出会えることがうれしいです。

保護者には、出来るだけ良かった面を伝え、子育ての少しの手助けになればうれしいなと考えています。

ちなみに、今はまっている児童クラブでの遊びは、「記憶力選手権」。

子どもがコツを掴むとスゴイですよ(笑)



児童クラブで働こうと考えている方へのメッセージ

●児童クラブで働こうと思ったきっかけは？

○幼い頃から幼稚園の先生に憧れていたこともあり、以前は幼稚園教諭として勤務していました。

しかし、受け持った児童は、あつという間に卒園してしまい、「もっと成長する姿を見たい」と思うようになりました。

子育てもひと段落し、「再度、子どもと接する仕事を」と考えていたとき、小学生を対象とした児童クラブに興味を持ちました。

将来は支援員として、と考えていましたが、はじめてで自信が無かったので、補助員として児童クラブでのキャリアをスタートさせました。

幼稚園とは違い、異学年の児童が集まる児童クラブ。また、幼児とは違い、クラスで楽しかったこと、嫌なことを持ち込んで放課後にやってきます。

支援員を中心とした職員全員が、子どもたち以上に明るく、元気に接していたことを鮮明に覚えています。また、支援員の方から、

- ・児童と信頼関係を築くこと
 - ・心の声をしっかりと聞くこと
 - ・安心できる場であるように努めること
- を教わりました。

今でも、その気持ちは忘れないようにしています。

●支援員としてやりがいを感じるころはどこですか？

○子どもたちと全力で向き合うことができるところです。良いところは徹底的にほめ、何かあればじっくり話を聞きます。子どもたちは時にはケンカもします。でも、そんな時こそ一人ひとりと向き合えるチャンスとと思っています。



また、日頃から児童を観察することを大事にしています。ただ、一人だけでは限界がありますので、補助員の方と協力しながら、情報を共有し、職員全員で保育をしています。

●これから支援員になられる方へ一言お願いします。

毎日、クラブ内では子ども達の笑顔でいっぱいです。『やってみたい保育ができる』『子ども達と一緒に育つ楽しさや新たな自分を発見できる』、それができるのが支援員の仕事です。私達と一緒に楽しい時間を過ごしましょう！

(児童クラブ支援員 5年目)



●児童クラブで働こうと思ったきっかけは？

○学校現場で給食の調理員をしていたときに、給食を待ちわびて配膳室に飛び込んでくる児童の様子が愛おしくて。

結婚・出産を期に一旦退職し、子育てしながらパートタイムで仕事は続けていましたが、子育てがひと段落して、もう一度子どもと接する仕事は無いかと考えるようになりました。

子育てを経験してわかったことがあります。

それは今、核家族化が進み、共働きが当たり前前の時代。

当時、働いている時間に、安心して子どもを預けられる場所が少なく大変困ったこと。そんな子育て世代のお父さん、お母さんの手助けをしたい。

また、今の子どもは、多忙で、多くのストレスを抱えています。

習い事も大事ですが、学校から帰っておやつを食べてほっとする時間、誰にも評価されない貴重な時間を大事にしたいなって。そんな理由で児童クラブ支援員を志望しました。

●支援員として大事にしていることは！
○無理におしつけないことです。
本を読みたいとき、一人でいたいとき、友達とおしゃべりしたいとき。児童それぞれの放課後の過ごし方を尊重しています。

●保護者に対して気をつけていることは？
○子育て期の大変さは、私も経験しているからこそよく分かります。

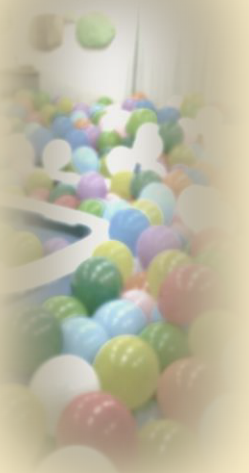
保護者の方には、できるだけ、子どもたちの様子を具体的に伝えるようにしています。
信頼関係が築ければ、保護者の方も笑顔になって、お家での様子を話してくださるようになります。働く保護者の方々のために何ができるか、子ども達と同様に、これからも全力でサポートしていきたいと思っています！

●これから支援員になれる方へ一言お願いします。
ます。

○児童クラブは、大好きな子どもたちから元気をもらえる場所。『児童クラブ楽しかった！』『早く学校が終わって児童クラブに行きたいなあ』と言ってもらえると疲れなんて吹き飛んでしまいます。

経験がなく、不安に思う方もおられると思いますが、支援員だけではなく、補助員と共に協力して子ども達一人ひとりの成長を見守っていく仕事です。子どもが好きな方、ぜひ一緒に働きましょう！

(児童クラブ支援員 13年目)



●児童クラブで働こうと思ったきっかけは？
○小学校で教員として勤務しているときは、カリキュラムに追われ、子どもに満足に接することができたのだろうか、という思いがありました。

当時、不登校児童を担当していたとき、学校に行けるように、児童と保護者が放課後に、登校する訓練をすることがありました。
そのときに見えた児童の素顔。

学校は授業があり、テストがあり、緊張した状態が続いていることもあり、素直に自分を表現できない子どももいます。

それが、放課後にほっとした顔がなんともうれしかったのです。

『この素顔と触れ合いたい』
退職後、児童クラブの支援員を応募しました。

●支援員の魅力とは？

○私が思う魅力は3つあります。

・一人ひとりの個性や可能性を伸ばすサポートができること。
・子どもたちの感性を育てるために、支援員がアイデアを活かした自由な保育ができること。
・第2のおうちのように、子ども達が安心して、『ただいま！』と笑顔で帰ってくるところ。

季節の移り変わりや、それに伴った昔からの日本の伝統行事等を十分に感じてもらいたいと思っています。

毎月その季節に応じたものを工作するのですが、完成までの過程の中で、

『○○さん、こんなんどう？』『それめっちゃええやん！ちなみに、こっちはどう？』と、子どもたちの意見が飛び交います。

保護者の方々がその工作の壁面を見たときの反応が嬉しくて。『先生、ありがとう！』の言葉を頂いたときは、とても嬉しかったです！
壁面をバックに、全員で撮った集合写真は私の一生の宝物です。

●これから支援員になれる方へ一言お願いします。
ます。

○子ども達が安心して過ごせることのできる児童クラブたち一緒に築いていきますか。
児童、その保護者の方々との出会いを大切に、子どもの持っている可能性や夢を育むために、一緒に働きましょう！

(児童クラブ支援員 2年目)

